2月5日(月)

誠実な神

聖書朗読 II コリント 6:3~13

今、あなたがたは主を恐れ、誠実と真実をもって主に仕えなさい。あなたがたの先祖たちが川の向こう、およびエジプトで仕えた神々を除き去り、主に仕えなさい。

ヨシュア 24:14

信頼出来る誠実な方と言えば、神様に勝る方はいらっしゃらないのではないのでしょうか。そして私達も神様に対して誠実であるべきです。パウロは神様から与えられた任務を果たす際の態度により、誠実な姿勢を示しました。パウロを取り巻く状況は決して良いものではありませんでしたが、そんな中でも神様への信仰心が揺らぐことはありませんでした。使徒9章15節では『しかし、主はこう言われた。「行きなさい。あの人はわたしの名を、異邦人、王たち、イスラエルの子孫の前に運ぶ、わたしの選びの器です』と書かれています。パウロは自分に与えられた任務がいかに大切なことかを理解していたのです。

本日の聖書朗読の箇所では、パウロがどのような困難に直面したかについて触れられています。まず、肉体的な困難（むちで打たれ、労役を務める）、そして霊的な困難（愛すること、そして非難されても純潔でいること）、さらに社会的な困難（中傷を受け、誤解され、無視されること）もありました。これらの様々な困難があろうとも、パウロは神様への信仰心を失うことはありませんでした。そして神様から与えられた任務を着実にこなしました。

パウロが体験した試練と具体的に同じ試練ではないかもしれませんが、私達も試練に直面することがあります。パウロは様々な問題、困難、災難について書いていますが、これらの試練に、私達も自分自身が出合ってきた試練を重ね合わせて考えることが出来るのではないのでしょうか。そしてパウロが私達に教えていることは、試練の中にあっても常に神様に対し誠実であり続けることの大切さです。私達は神様に愛され神様の子供とされているのですから、その神様を信頼し、神様に対し誠実であり続けましょう。

讃美歌 II 編191

祈り 神様、いつも変わらず私達を愛して下さい、感謝します。あなたはいつも信頼出来る誠実なお方です。どのような状況下であろうと、揺らぐことのない信仰を持てるよう、私達を強めて下さい。私達の信仰のお手本ともいえるパウロのような信仰の先輩達を感謝します。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

ジーナ・D・ゴードン

サウスカロライナ州 ミュレルズ

今日の方

2018年2月5日～2月11日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

2月6日(火)

レット・イット・ゴー ～ありのままで～

聖書朗読 ピリピ 3:12～16

兄弟たちよ。私は、自分はすでに捕えたなどと考えてはいません。ただ、この一事に励んでいます。すなわち、うしろのものを忘れ、ひたむきに前のものに向かって進み、キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです。ピリピ 3:13～14

ディズニー映画『アナと雪の女王』のテーマ曲、「レット・イット・ゴー～ありのままで～」はあつという間に流行の歌となりました。私の周りの小さい子達も何気なく歌っていますが、歌詞には深い意味があります。過去がいかに暗く自分を悩ませるものであっても、それを振り返り続けることは出来ない。過去にけじめをつけ、前へ進むことが大切であるという深い意味です。「私は戻らない、過去は過去にある」(※英語の歌詞からの直訳)と雪の女王であるエルサは歌い、人生を歩み出して行きます。

「私に従いなさい」とイエス様から呼ばれた時、私達は過去を置いて、イエス様に従います。バプテスマにより、新しいいのちが与えられ、過去に足止めされることはなく、新たな人生を歩むこととなります。過去自分に起こったみじめな出来事や悲しい出来事、これまで自分がどのように周りの人から扱われてきたか、また今までどのような罪を犯したか、そういった過去のことはもはや問題ではないのです。使徒パウロは、私達が一旦立ち止まって、過去のことで必要のないものは置いていく大切さを教えています。過去は過去であり、やり直すことは出来ません。本日の聖書箇所14節で『キリスト・イエスにおいて上に召してくださる神の栄冠を得るために、目標を目ざして一心に走っているのです』とパウロは書いています。私達はバプテスマにおいて古い自分から新しい自分へと造り変えられています。ですから、過去は置き去り、神様に従い、進んで参りましょう。

讃美歌 589

祈り 親愛なるお父様、過去に捕らわれることがある私達をお赦し下さい。過去を置いて、あなたに従うことが出来るよう助けて下さい。

イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

コニー・シンプキンス・トーマス
ケンタッキー州 マウントワシントン

2月7日(水)

愛に満ちた救助者

聖書朗読 Iテサロニケ 1:2～10

また、神が死者の中からよみがえらせなされた御子、すなわち、やがて来る御怒りから私達を救い出してくださるイエスが天から来られるのを待ち望むようになったか、それらのことは他の人々が言い広めているのです。Iテサロニケ 1:10

2013年4月15日に起きたボストン・マラソン爆弾テロで、ロザン・スドアは重傷を負い、右足を失いました。消防士のマイケル・マテリアが彼女を病院へ連れて行きました。ニュース・レポーターは「その時は他人同士(あくまでも消防士と救助を必要とする人の関係)の二人でしたが、マイケルがロザンの傍を離れることはありませんでした」とレポートしました。彼らは友情を育み、やがてそれがロマンスとなり、2017年秋に結婚することになりました。

マテリア氏がスドアさんを救助したことは、イエス様が私達にして下さったことと重ね合わせて考えることが出来ます。イエス様は私達を『今の悪の世界』(ガラテヤ1:4)より救い、律法から解放し(ローマ7:6)、『暗やみの圧制』(コロサイ1:13)より救い出して下さいました。

パウロも『やがて来る御怒りから私達を救い出してくださるイエスが天から来られる』と本日の聖書箇所の10節で明記しています。ここで着目すべきは、この聖句が現在形で書かれていることです。つまり、これは済んだことではなく、イエス様は今現在も私達を私達の罪から救い出して下さっているのです。イエス様が、絶望により無気力になってしまった私達ですら救って下さるからこそ、私達クリスチャンは靈的に豊かに生きることが出来るのです。つまり私達の人生は、罪から解放された喜びに満ちたものとなり、罪に対し勝利した人生となるのです。

私は恐れを感じません、イエスがいらっしゃるからです
イエスと共に生きるなら、恐れることはありません
私は主に在りて生きる者とされ、神の義をまとう者とされた
ああ、何という愛なのだろう！
神がこんな私のために死んで下さるとは！
—チャールズ・ウェスレー

讃美歌 II編167

祈り 神様、愛を持って私達を救って下さり、ありがとうございます。
イエス様の御名を通して祈り致します。アーメン。

エドワード・J・ロビンソン
テキサス州 テレル

2月8日 (木)

私が必要とする全て

聖書朗読 I テモテ 1:18~20

私の子テモテよ。以前あなたについてなされた預言に従って、私はあなたにこの命令をゆだねます。それは、あなたがあの預言によって、信仰と正しい良心を保ち、勇敢に戦い抜くためです。
I テモテ 1:18

私は日々の祈りの時間に、物質的な貧困の中にいる人々のために祈りを捧げています。例えば、難民キャンプにいる人達、親から見放され自らの力で生きていかなくてはならない子ども達、発展途上で日々ほんの僅かな食料を家族全員で分け合わなくてはならないような人達です。しかし、こういった物質的な貧困に置かれている人達の中にも神への信仰を持つ人達があり、彼らは、困難な状況でも助け導いて下さる神について力強く証しています。

自分が生きている状況とは全く違う状況に置かれている人達に心を向け、彼らが体験していることを理解することは容易いことではありません。彼らを理解すべく、私は自問自答します。彼らのように、財産を全てなくしたらどうするだろうか？ 果たしてそのような状況で変わらぬ信仰を持つことが出来るだろうか？ 『ご自分の前に置かれた喜びのゆえに、はずかしめをものともせず』(ヘブル12:2) 十字架を忍んだイエスから目を離さないでいることが出来るだろうか？

イエス様は、多くの痛みを耐え忍ばれました。それは私達の『心が元気を失い、疲れ果ててしまわないため』でもありました(ヘブル12:3)。ある人は言いました。「物質的な物をすべて失い、もう自分にはイエス様以外に頼れる存在が何もないという状況になった時にこそ、本当に私が必要としているのはイエス様だけであるということを理解できるのです」と(※)。物質的に困難な状況に置かれているからこそ、神としっかりと繋がり、素晴らしい信仰を持っている人々もいるのです。(※)コーリー・テン・ブーム [オランダ人クリスチャン、ホロコースト生存者] の言葉)

聖歌 472

祈り 「主よ。私のたましいは、あなたを仰いでいます。わが神。私は、あなたに信頼いたします。どうか私が恥を見ないようにしてください。私の敵が私に勝ち誇らないようにしてください」(詩篇25:1~2)。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ボブ・メイズ

テキサス州 ラバック

2月9日 (金)

神はあなたをお用いになる

聖書朗読 II テモテ 2:1~7

終わりに言います。主にあつて、その大能の力によって強められなさい。

エペソ 6:10

自分が神様に喜ばれるような生き方をしているかどうか、ふと立ち止まって思い巡らせたことはありますか？ 私はあるのですが、その時私が思い起こしたことは、主は「誠実な人」を喜ばれる、ということです。学問的知識、人の評価による人気、経済的富、格好の良さ、服装の着こなし等、こういったことはあまり重要ではなく、誠実な人を神は喜ばれるのです。兵士、開拓農民、スポーツ選手のように、ひたすら誠実に一つのことに取り組む人です。年齢、出身地、社会的地位などがどのようなものであれ、人は誠実に生きるという選択をすることが出来ます。パウロも次のように書いています。『兄弟たち、あなたがたの召しのことを考えてごらんください。この世の知者は多くはなく、権力者も多くはなく、身分の高い者も多くはありません。しかし神は、知恵のある者はずかしめるために、この世の愚かな者を選び、強い者はずかしめるために、この世の弱い者を選ばれたのです。また、この世の取るに足りない者や見下されている者を、神は選ばれました。すなわち、有るものをない者のようにするため、無に等しいものを選ばれたのです』(I コリント1:26~28)。

私にとって、大勢の人前で福音を宣べ伝えることは向いていないかもしれません。しかし、買い物に行った際に店員さんを相手に福音を分かち合うことは出来ます。ベストセラーを出版するような作家にはならないかもしれません。でも、同じ町内に住むご高齢の方々にメッセージを書いたカードを送ることが出来ます。何百人もの生活に困窮した方々のお腹を満たす炊き出し活動のリーダーになることは、私には出来なないかもしれません。しかし私でも、近所の寝たきりの方々や、孤独な方々に食事を届けることは出来ます。規模はあまり重要ではありません。誠実に、今自分に出来る仕方です。神様にお仕えしていくことが大切なのです。

讚美歌 II編26

祈り 天にいらっしゃいます神様、絶えざる愛をありがとうございます。御心に従えるようお導き下さい。どうぞ、私の祈りに耳を傾けて下さり、私が誠実に歩めるようお助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ボブ・メイズ

テキサス州 ラバック

2月10日(土)

生きる上で必要な「健全な教え」

聖書朗読 テトス 2:1~10

盗みをせず、努めて真実を表すように勧めなさい。それは、彼があらゆることで、私たちの救い主である神の教えを飾るようになるためです。 テトス 2:10

テトスへの手紙においてパウロは、テトスに次のことを指示しています。すなわち、教会に集う様々な世代や性格の人々に対し何を教えるべきか、という指示です。テトスは『健全な教え』(2:1)を教えるよう指示されています。ここでの「健全」は、原語のギリシア語ではフギアイノーという言葉が使われており、霊的な意味で健康なことを意味し、霊的に人々を豊かにするような教えについて指す言葉です。間違った教えは、信仰の面で病気の状態であり(Iテモテ6:4)、間違った教えは教会をがん細胞のように蝕んでしまいます(IIテモテ2:17)。

聖書朗読箇所の前半部分によれば、年配者達は謹厳さと慎み深さを持つよう教えられています。また年配の婦人達は、若い女性達を教え、助け、そして良き妻、良き母の模範となるべきです。そうすれば、健全な教えを実践している人達が非難されることは無く、むしろ称賛されます。

恐らくテトスは若い男性で、霊的に健全な歩みを実践する者の模範として遣わされたのでしょう。聖書朗読箇所の後半では『神の教えを飾る』ことについて触れられています。神様に従うという霊的に健全な歩みをする中で、私達の人生は意味を持つのです。特に目を見張るような大きな出来事を成し遂げなくても、日々の生活の中で神様の教えを守ることに注意しながら生きることは、神様の前にあって大きな意味があるのです。

讃美歌 338

祈り 天におられるお父様、日々の生活があなたに捧げられたものとなるようお導き下さい。あなたの教えを守ることの大切さを今一度思い起こさせて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ハーヴィー・フロイド

テネシー州 ナッシュヴィル

2月11日(日)

神に在って自信を持つ

聖書朗読 ヘブル 3:12~14

わたしはあなたに命じたではないか。強くあれ。雄々しくあれ。恐れてはならない。おののいてはならない。あなたの神、主が、あなたの行く所どこにでも、あなたとともにあるからである。 ヨシュア 1:9

映画の『サウンド・オブ・ミュージック』で、マリアがトラップ大佐一家に会う際、彼女はとても緊張していました。マリアには、一家の七人の子ども達の住み込み家庭教師を務めるという大きな役割があったからです。マリアは緊張をほぐすため、「あなたなら必ず出来るわ。私はあなたの傍でそう信じて応援しているの」というメッセージで終わる歌を歌いました。

皆、マリアと同じように自信を持ちたいと思っているのではないのでしょうか。私達は自信を持つことが出来ますし、自信がないと思う気持ちを変えることも出来ます。しかし、聖書を見ますと、真の自信とは、自分自身の能力を拠り所としている訳ではないことが分かります。真の自信とは、自分自身だけを見つめて生じるものではなく、神を見上げる時に与えられるものなのです。真の自信は、神様が私達にしてくださっている約束があるからこそ、湧いてくるのです。つまり、「神様は私達を決してお見捨てにならない」という神様の約束が真実である、という信仰を持つ時、私達に真の自信が与えられるのです。神様の愛や慈愛について私達は確信していますが、さらには、神と共に永遠に歩むことが出来る永遠のいのちについても私達は確信を持ち、自信を持って人生を前へと進んでいくことが出来ます。

ミカ書7章7節には『しかし、私は主を仰ぎ見、私の救いの神を待ち望む。私の神は私の願いを聞いてくださる』とあります。ミカのように、私達も唯一の神に拠り頼むことによって与えられる自信と信頼、そして信仰をもって歩んで参りましょう。

讃美歌 270

祈り 父なる神様、あなたが約束して下さっているあなたの愛、慈愛、慰め、そして永遠のいのちをありがとうございます。自分自身に拠り頼むのではなく、あなたに全面的に信頼することができるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

クリスティーン・アダムス

ニューメキシコ州 ホブス